

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学

1 全体評価

北陸先端科学技術大学院大学は、豊かな学問的環境の中で世界水準の教育と研究を行い、科学技術創造により次代の世界を拓く指導的人材を育成するとの理念を掲げ、先端科学技術を担う大学院大学として、持続可能な地球社会の諸課題の解決に向けた基礎科学、応用科学の探究や、社会のニーズを踏まえた研究開発等を目指している。第3期中期目標期間においては、学内外の知を融合した新たな先端科学技術分野の創出と当該分野における世界的な教育研究拠点の形成を推進するとともに、産業界等において世界的に活躍し得る「知的にたくましい」人材の育成や社会的課題の解決、イノベーションの創出に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、効果的な教員一元管理の仕組みの導入や国際的研究拠点・実証拠点（エクセレントコア）における若手研究者や外国人研究者の雇用に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 国際的研究拠点・実証拠点（エクセレントコア）において、若手研究者や外国人研究者の雇用に加え、世界トップレベルの研究者を特別招へい教授として国内外から招へいするなど優れた研究人材の集積を図っており、39歳以下の若手教員・研究者の占める割合は45.8%、外国人教員・研究者の占める割合は41.7%、研究指導を受ける博士後期課程学生の割合は定員の18.9%となり、中期計画に定める数値目標を達成している。（ユニット「卓越した国際的研究拠点・実証拠点（エクセレントコア）の構築」に関する取組）
- テニユアトラック制適用者を准教授にも拡大するため、前段階として、学内の准教授から教授への内部昇任制度の審査基準等を整備の上、実施している。更なる本格導入に向け、内部昇任制度の厳格な審査基準等を参考とする制度設計に着手している。（ユニット「人事・給与制度改革による多様な人材の確保」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 効果的な教員人事一元管理の取組

教員人事の一元管理の仕組みにより、「グローバルに活躍できるイノベーション創出人材の育成」のための教育プログラム実施教員1名を採用するとともに、「世界をリードする最先端研究・融合研究」をマネジメントする教員2名を民間企業とのクロスアポイントメント適用として雇用し、教育研究プログラムの開発を実施している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理・危機管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 社会人人材育成事業の実施

駅前オフィスを活用し、異業種・異分野の産学連携交流イベントや地域人材育成セミナー、社会人向けデザインスクール等、地方創生・地域活性化の推進を目的としたJAIST社会人セミナーを実施している。地域産業界や地元自治体から1,141名の参加があり、スキルアップや学び直しの場としてのニーズに応じて、平成30年度はオフィススペースを拡大し、収容定員増を決定している。

○ エクセレントコア推進本部の設置

エクセレントコアを集中管理し、研究戦略・研究環境の企画・立案を行うとともに、新たなエクセレントコアの設置に向け、研究担当理事を本部長とするエクセレントコア推進本部を設置、専任の特任教授2名、リサーチ・アドミニストレータ（URA）1名を配置し、外部資金獲得の増加に向けて取り組んでいる。